
ロックマン&行人～珍闘!?藍蘭島での戦い!!～

たけじん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロックマン&行人〜珍闘！？藍蘭島での戦い！！〜

【Nコード】

N3991Y

【作者名】

たけじん

【あらすじ】

西暦20XX年・・・

ロボット工学が発達したこの世界から孤立した島がある・・・

それがここ「藍蘭島」である・・・

だがしかし、この島に「ワイリー軍団」の魔の手が迫る！！

立ち上がれ！ロックマン！！行人！！仲間たちと共に・・・！！

はじめて投稿する作品です、以前友人と創作した短編をリメイクしてやってみました！

2・3週間に一度くらいの投稿になるかもしれませんが、なにとぞ

眠る田んぼ見せしめてくたせう・・・。

第一話「頼まれて、解説」(前書き)

どうも！たけじんです！今回が初投稿となりますが、どうぞよろしくおねがいます！！
それでは、はじめはじまり～

第一話「頼まれて、解説」

西暦20XX年・・・

ロボット工学の発達により、世界中で心をもったロボットたちが活躍する時代となった・・・。

だがしかし、それにともない、ロボット犯罪も増え、世間を騒がせる悪の天才科学者「Dr.ワイリードクター」もまた、世界征服の野望を何度も懲りずに燃え上がらせるのだった・・・。

しかし、そんな世間とはかけ離れた島があった・・・

それがここ、「藍蘭島あいらんどう」である・・・。

島でただ一人の少年、「東方院行人とうほういんいくと」は、

この日、居候先の少女、「すず」と子豚の「とんかつ」とともに「ちかげ」の館へとおもむいていた。

すず「いったい何だろうねえ、行人お？ちかげちゃんの見せたいものって？」

とんかつ「ぷ〜？」

行人「さあねえ？ちかげさんのことだから、どうせまた、漂着物が、怪しげなアイテムだったりしてね」

二人（と一匹）は来客用のソファに腰を掛けて、この館の住人の少女、ちかげが来るのを待っていた、

と、そこへ・・・

ちかげ「行人さん、すずちゃん、おまたせしましたわ、こちらへどうぞ」

彼女の名は「ちかげ」、黒髪でメガネをかけたこの館の住人だ。

行人「それでえ、見せたいものって、一体なんですか？」

ちかげ「この部屋の中にありますよ」

ちかげが自室のドアを開ける・・・すると・・・。

ゴチャャー！！

行人「うわゝ、またいつぱい物が増えましたねゝ（しかも見たことあるのばかりだ・・・）」

なんと、そこにはメットールやらテリーやらのロボットの残骸でいつぱいになっていたのだ！！

パナ子「ホント、ちかげさんのガラクタ集めには困りますよ・・・この象は「パナ子」さん、ちかげの家のメイドである・・・

ちかげ「ですから、なんでも言っていますように！これらの物は外の世界の大切な資料なんですの！！」

ちかげが憤慨する、彼女にとって、これらのガラクタは孤立したこの島の外の世界を知るための資料であり、いわば宝の山なのだ。

すず「それにしてもちかげちゃん、こんなによく集めたねゝ」

とんかつ「ぷゝ」

すずととんかつが関心（？）する

ちかげ「ええ、何せ、大切な資料ですからね で、今回呼び出した理由ですが、行人さんにこれらの新しい漂着物の説明をお願いしたいんです」

行人「ええっ！？僕にですか！？・・・まあ、いいですけど・・・行人はあまり乗り気ではないが、とりあえず、説明を請け負うことにした。」

ちかげ「では、これが何なのか、説明してもらえますか？」

ちかげが一体の小型の黄色いロボットを取り出して、行人に見せた行人「ああ、それはメットール、もともとは、工事現場の親方的な役割をになっていたんだけど、戦闘用に改造されて、いろんなバリエーションがある名機になったんだ、まあ、大抵はザコだけどね」
ちかげ「戦闘用に改造？まあ、恐ろしいことをする人がいるのですね」

すず「えっとお・・・それってえ・・・どういうこと？」

いっっておくが、すずの学力、理解力は決して良くはない・・・

行人「まあつまり・・・アレだよ、大工の頭領みたいな仕事をしてただけど、戦闘用・・・つまり、戦いができるように、作り変えたんだよ」

「へえ、そうなんだあ・・・なんだかおっかない話だねえ」

行人が解説してようやく納得したはずであるが・・・

ちかげ（すずちゃん・・・ここまで理解力が乏しいとは・・・）

ちかげが内心哀れんでいた・・・、まだまだ改良（勉強）の余地はありそうである・・・

ちかげ「・・・すずちゃん・・・今度、国語の勉強も・・・ちゃんとしておきましょうね・・・」

すず「うにゃあ!? なんていきなりい!?!」

行人「・・・ダメだこりゃ・・・」

行人は半ばあきれていた・・・、この状況を早く何とかしなければ・・・

行人「・・・ああ・・・ええつとあ・・・、説明に戻るね!」

行人は話題をそらした・・・、賢明な判断である。

行人「こいつはテリー、ちょっと小さいけど、侵入者撃退用に作られた、ガードロボットさ」

円筒形で緑色の小型ロボット、テリーの解説である

ちかげ「つまり、防犯用に作られたって事なんですね?」

行人「そうゆうことです、んでえ、こいつはブンビーヘリ、工事現場なんかで事故が起きないか監視するためのロボットなんです」

ちかげ「なるほどお・・・本で読んだりしていましたが、いろんなロボットがいるんですね」

ちかげが感心する、

なにせ、この島では「ロボット」というものは、ほとんど存在すらしていないのだ、ある一体を除いては・・・。

すず「ねえ、よくわかんないけど、「ろぼつと」ってさあ、「さくや」さんみたいなあの事だよねえ?」

行人「うん、たしかに、さくやさんも同じロボットだろうけど、作られた年代からして違うしなあ」

さくやとは、温泉旅館「月見亭」の自称「女将」であり、130年、あるいはそれ以上に作られた精巧な「からくり人形」なのである。

性格はというと、普段はいたって温厚であり、旅館のお客さんに対する「おもてなし」が大好きで、それが自分の役割だと思っているが、自身やお客の敵と認識した者に対しては排除を開始する……。

なお、制御システムは「頭の歯車が一つ取れただけで」暴走してしまふという恐ろしいところがある……。

行人「まあ、ここにある小さいの他にも、人型ロボットなんかもたくさんいるんだ、さくやさんと、ほとんど変わらないぐらい高性能で心を持ったロボットたちがね」

ちかげ「へへ、それはおもしろいですわねえ……ますます興味がわいてきましたわ!」

ちかげのテンションが上がった! 島の外の世界への興味なのか、はたまたロボットへの興味なのか、そこははかりかねるが……
すず「ねえ、行人、とここでこのおじいちゃん、誰なの?」

すずがある新聞を手に取り、行人に見せる……

行人「ん?どれどれ?……ん?これは……?まさか!」

行人は驚愕の声を上げた!そしてその新聞の一面には、こう書かれていた……

「Dr・ワイリー、ドクターまたも脱獄す!!!」

行人「あのじいさん!またやったのか!!!」

このとき、彼らはまだ知る由もなかった・・・
これから始まる・・・大波乱のことなど・・・

第一話「頼まれて、解説」(後書き)

いかがだったでしょうか？

ちなみに僕は有賀版ロックマンをバイブルとしています！

解説して、ワイリー！（前書き）

いつものぞいてる、「ロックマン掲示板」での見てみたら、反響が
すごいです！

オラ、ワクワクしてきたぞー！！

解説して、ワイリー！

GAME START

? P A S S W O R D

行人が驚愕の声を上げた記事、それは・・・

行人「・・・本日午前9時、度重なる世界征服の罪で逮捕、収監されていたS級犯罪者、「アルバート・W・ワイリー（57歳）」が、またしても刑務所を脱獄し、そのまま「ワイリーUFO」に乗って飛び去り、自身の作ったロボット軍団と共に行方をくらました。・・・現在、警察や国連軍などが総力を挙げて捜索にあたっているが、その居所は全くつかめず、近いうちにまた新たな世界征服計画を実行する可能性がある」と指摘されており、もしそうなったとしたら、また「Dr. ^{ドクター}ライト」や「ロックマン」達の活躍に頼らざるを得ないかもしれない・・・」

無我夢中で記事を読み上げる行人、

そう・・・、彼はわかっているのだ、この「事の重大さ」を・・・彼だけは・・・

すず「ねえ？行人？さっきからどうしちゃったの・・・？」

ちかげ「行人さん？どうしたんですの？」

すずとちかげが話しかけるが、行人は震えていた・・・

行人「この日付は・・・僕がここに来た日からかぞえて・・・3ヶ月と半月・・・つまり、今日から半月前か！！」

行人は焦っていた・・・しかし、今の自分ではどうしようもできないことも、重々承知しているつもりであるのだが・・・

すず「ねえ行人、落ち着いて！　いったいどうしたってゆづの？」
とんかつ「ぷー！　ぷーぷぷー！！」

行人はハツとなった。しばらくの間、我を忘れていたことにようやく気付いたのだ。

行人「ああ、ごめん、すず、とんかつ・・・ちかげさんも・・・」

行人はすず達に謝る、・・・彼自身、（心配かけちゃったな）と少し反省している。

すず「行人お、このおじいちゃんが、一体どうしたっていうの？」
ちかげ「そういえば、私もよくは存じませぬわ、この際ですから、解説をお願いしますわ」

さすがにこうなつてはイヤとは言えない。

行人「・・・この人は「Dr・ワイリー」、^{ドクター}自称「悪の天才科学者」にして、S級犯罪者さ」

すず「どくたーわいりー？」
ちかげ「自称、悪の天才？」

二人はキョトンとしている、ちかげはまだしも、特にすずはよくわからん単語を聞いたものだから、頭の中はそりゃあもう、「？」「？」でいっぱいだ！

行人「・・・本名は「アルバート・W・ワイリー」、ロボット工学に秀でた科学者なんだけど・・・、昔から、さまざまな理論などを学会で提唱していたけど、彼のは独自性が強すぎたらしく、過激なものも多く、あまり、いい評価は得られなかったんだ・・・。それにいくつものコンクールなどに自分の作品を出していたんだけど・・・いつもライト博士に次ぐ、二番煎じだった・・・。その後、彼は行方をくらましたんだけど・・・10年近く前にロボット軍団を率いて、世界征服に乗り出したんだ!」

すず「ええと・・・つまり・・・どうということ?」

さすがにすずには理解しづらい説明だったか・・・

ちかげ「つまりその人は、自分を評価しようとも、認めようともしなかった世間に対して、復習を始めたというわけなのですね?」
行人「そういうこと。でも、この世界征服計画は、ある、スーパーヒーローによって、何度も打ち砕かれているんだ」

ついに来た・・・例のアレが・・・

ちかげ「その、スーパーヒーローとは、誰ですか?」

来る・・・ヤツが来る・・・

行人「ふふふ・・・よくぞ聞いてくれました・・・(キラーン!)」
すず「行人?作者もだけど、さつきからてんしょんが変だよ?」

おいおい、突っ込んじゃあかんで、緊張感が・・・

行人「そう!彼こそは、のちの派生形の「ロックン回路」の基盤と

なる「良心回路」を内蔵し、争いごとを好まない性格ながらも、兄弟たちを止めるために自ら戦闘用への改造を志願した、少年型家庭用ロボット！形式ナンバー、「DRN001」！……その名は、『ロックマン』だああ！！」

行人のテンションがえらいことに……

解説して、ワイリー！（後書き）

行人くんとか、すずちゃんとか、シユールな発言が多いですが、実際、原作でもそうです・・・なお、ロックン回路は「池原版ロックマン6」を基にしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3991y/>

ロックマン&行人～珍闘!?藍蘭島での戦い!!～

2011年11月24日12時48分発行